

# 小児・AYAがん患者における がん生殖医療の実際

小児・AYA世代のがん患者の生命予後は改善しており、日本癌治療学会は「妊孕性温存に関する診療ガイドライン」を2017年に発刊した。

その背景には、生殖補助医療の急速な進歩がある。

本講演では、小児・AYAがん患者に行われている妊孕性温存方法を具体的な事例を紹介しながら、現在のがん生殖医療の適応と限界を解説する。

さらに、妊孕性を喪失したがんサバイバーへの対応についても言及する。

福島県立医科大学

ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授

**講師**

**高橋 俊文 先生**

(たかはし としふみ)

1990年 山形大学医学部卒業  
1997年 山形大学医学部産科婦人科助手  
2004年 Vanderbilt大学（米国）リサーチフェロー  
2007年 山形大学医学部附属病院講師  
2010年 山形大学医学部附属病院病院教授  
2016年 福島県立医科大学  
ふくしま子ども・女性医療支援センター教授

専門医

日本生殖医学会生殖医療専門医

日本内分泌学会内分泌代謝科(産婦人科)専門医・指導医

日本産婦人科内視鏡学会技術認定医(腹腔鏡、子宮鏡)

日本内視鏡外科学会技術認定医



**日時：2019年5月21日(火)18時～19時**

**場所：福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室**

司会：菊田 敦 先生（小児腫瘍内科）

**参加無料／事前登録不要**

- ◆ がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ及び、患者様、一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
  - ◆ 本セミナーは、『東北次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
  - ◆ 本学大学院生は、大学院授業要綱で規定する共通必修科目(規定の8)に該当します。履修票を忘れずにお持ち下さい。
- 【お問い合わせ】 福島県立医科大学 教育研修支援課 TEL:024-547-1095 E-MAIL: ganpro@fmu.ac.jp  
【次回予定】 2019年6月18日(火) 18時～19時 / 福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室  
(講師) 聖路加国際病院 免疫細胞治療科 部長 平家 勇司(へいけ ゆうじ)先生